

## 第6回 多文化子育てサークル@豊田市 報告

### 第7回 多文化子育てサークル@知立市

愛知県多文化共生推進室では今年度、知立市と豊田市の2カ所で「多文化子育てサークル」を実施しており、知立市では「NPO 法人 みらい」、豊田市では「NPO 法人 トルシーダ」へ事業を委託しております。

この度、1月20日（土）14時から豊田市において第6回目のサークルが実施され、知立市においても、1月27日（土）10時30分より第7回目のサークルが実施されました。

豊田市のサークルでは、看護師の方にお越しいただき、子どもの健康や、体調を崩したときの対処法、病院で処方される薬の飲み方などについてお話をしていただいた後、参加者からの様々な質問に対応いただきました。活発な意見交換をすることができ、子どもが熱を出したときの入浴や、薬の飲み方など、国によって文化がちがうことがわかりました。また、ブラジル人のお母さんから、病院で医師に横柄な態度をとられて戸惑った話などもありました。お母さん自身は、自分が外国人だからそういった態度をとられるのだと感じておられ、日本人にも同じような経験があると知ると驚きながらも安心したような表情を見せていました。

お話の後には、各国の風邪を引かないための飲み物を紹介し合いました。また、中国の薬効のあるお茶やブラジルのクレソンとにんにくのスープを実際に試飲し、参加者同士で感想を言い合いながら交流を深めました。知立市と豊田市の全14回のサークルを通して、サークル活動後の軽食の時間や各国のおやつづくり、今回の各国の薬効のある飲み物紹介など、何回か「食」に関する活動が取り入れられてきましたが、こういった活動の中で、参加者同士が食べ物をきっかけに、または食べ物を囲んで交流が深まっていく様子が見受けられていることから、「食」は参加者同士のコミュニケーションの促進に効果的なツールであると感じました。

豊田市の第6回サークルは、いつもより参加者が少なめでした。子どもの健康をテーマにした回でしたが、いつも参加してくれる子の中で、多くの子がインフルエンザにかかるなど体調を崩していたそうです。一方、今回の事業では、知立市でも10月末に子どもの健康をテーマにした活動を行いました。こちらは多くの参加者に参加いただき、子どもの健康管理などについて注意を促すことができました。活動内容の実施時期についての検討材料としていけるよう、この2つの実績を記録に残しておきたいと思います。

知立市の第7回のサークルでは、「絵本」をメインテーマに実施し、たくさんの外国語の絵本が用意されました。みらいのスタッフの方が絵本を読み聞かせくださり、子どもとの絵本の楽しみ方や選び方などを説明されました。その後、実際に参加されているお母さんたちが、自分の国の言葉でポルトガル語、フィリピン語、ベトナム語の絵本をそれぞれ読んでくださいました。外国語の内容は理解できなくても、子どもは絵を見ながら楽しめるようでした。絵本の読み聞かせは、子どもの集中力や言葉を育てるためにも重要ですが、言葉がわからず絵を見てお話するだけでも、親子のコミュニケーションにつながり、子どもの言葉の発達により影響を与えます。日本で母国語の絵本を見つけるのが難しくても、絵を見ながらお話することで、親子のコミュニケーションをとっていただきたいと思います。

絵本の活動のあと、スタッフ手作りの福笑いをし、ブラジル人のお母さんのつくったリズム遊びもしました。このリズム遊びは今回で3回目ですが、毎回とても盛り上がり、サークルの参加者

に一体感が生まれます。福笑いも、大きい子どもが小さい子どもをサポートしながら、夢中になって遊んでいました。みらいの活動には保育士の方が中心のかかわり、いつも趣向を凝らした遊びを用意されています。サークルを普及していく上では、こうした保育士の方をたくさん巻き込んでいけるよう、説明会などを実施していきたいと考えています。

みらいのサークルでは、保健師の方からの子どもの栄養についてお話もありました。ジュースやチョコレートに入っている砂糖の量について、サンプルを見せながら説明してくださり、参加者はその量に驚いていました。口頭で説明するだけでなく、飲み物や食べ物のサンプルを見せながら説明していただいたことで、保護者だけでなく年長くらいの子もたちにも興味を持って聞いてもらうことができたようでした。活動後の食事会では、参加者みんなでフィリピン料理をいただきました。

参加者が多く、内容も盛りだくさんで、最終回にふさわしいとてもにぎやかな会になりました。

今回の事業では、みらいは知立団地内、トルシーダは交通の便がよい豊田市駅の近くと、活動場所の選び方が対照的になっています。知立団地で実施しているみらいのサークルには、団地に暮らしている近隣住民の方が徒歩で参加されているケースが多いようです。印象としては、比較的年齢層の低い乳幼児の参加が多く、参加者数も毎回安定しています。一方トルシーダでは、みよし市など他の市からの参加者も含め幅広い地域から自動車通ってこられる場合が多く、参加者数の変動が大きく、年齢層は乳児から小学校中学年の子までとなっています。どちらも、NPOとしての本来の活動の影響を受けているかもしれませんが、「多文化子育てサークル」を外国人の多い団地内などで開催するのか、利便性の高い地域の中心部で開催するのかは、重要な選択のひとつのように思われます。サークルの実施にあたっては、どのような方を対象にしたいのか考えた上で、実施場所を検討していく必要があります。

さて、2月3日（土）にトルシーダで開催されたサークルについては、後日改めて御報告させていただきます。知立市でも豊田市でもすべてのサークルが終了し、みらいさんもトルシーダさんも一息つかれていることと思います。県では現在「多文化子育てサークル」実施のためのマニュアルを作成しており、これらサークルの完了を受けて、よりよいマニュアルを作るため奮闘しています。少しでも多くの方に「多文化子育てサークル」必要性や意義を御理解いただき、実施までこぎつけていただけるよう、引き続き取り組んで参りたいと思いますので、皆様の御理解・御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

県の「多文化子育てサークル」事業については、以下のウェブサイトでご確認ください。

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/kosodate-circle.html>





